



幕末維新書留

慶應元年九月至十二月

慶元九十二

服部文庫
イ 17
2189
31



117 持
2189
31



口上覽

先月五日親奉國初燕氣松之被下節之在登順海門外浦中入位時自有玉皇圖字
其相也交相中一政守松亦不若畧人見藏身身其嘆嗚呼相者其不之語
分不中下日其七日朝中門不沖道其者故紫紅身猶又言口松再斗其無力其去帝亦
此是相也相者其一切無合亦尤無之方在之遊記也謹此

U A I I O H I

唐元九一〇
94

一 望於日異今在塔江之設亦以此今也及七列亦同開 望後江後方 此或設同日也
一 望於日異今在塔江之設亦以此今也及七列亦同開 望後江後方 此或設同日也
一 望於日異今在塔江之設亦以此今也及七列亦同開 望後江後方 此或設同日也

△山ア与Eし与

△山ア与Eし与

一 長列亦同開 望後江後方 此或設同日也

大形之方

小形之方

江廣核系右 望後江後方 此或設同日也

九月廿九日

小笠原左系大更

望後江後方 此或設同日也

九月廿九日

神尾鏡

十月廿九日

和泉守

吉門臨物亦未之者其原在在是也至國使古唐之遠耳對馬島之西
 多風帆運至此臨物是極海見遠而川西幸希于者去月六日收其
 弊不之使是子乃其原在在是也至國使古唐之遠耳對馬島之西
 相原和仕者之知然川和也位不以此事未古和之子在可相原和
 止番人亦之守位不為擇子之知然川和也位不以此事未古和之子在可相原和
 九事來之其原在在是也至國使古唐之遠耳對馬島之西
 未其原在在是也至國使古唐之遠耳對馬島之西

一 吉門臨物亦未之者其原在在是也至國使古唐之遠耳對馬島之西
 未其原在在是也至國使古唐之遠耳對馬島之西

可江也亦非之也其原在在是也至國使古唐之遠耳對馬島之西
 未其原在在是也至國使古唐之遠耳對馬島之西

十月四日

江原國信書目

門 龍之助

江原志保書目

志井 信之助

江原志保書目

八木志保書目

志保書目

山崎 東次

志保書目

十月四日

小原信之助

十日

一金

右京...

三布

大八保

世...

果本

右日人

日向...

右京...

別...

十月

右京...

日向...

一

柳...

九月

十日

右京...

一

英...

右京...

十月二日

友儿木音吉初冲卷逢... 井仔拆紙...

私發部御覽儒方利... 丹内元...

十月七日

松發部御覽儒方利... 丹内元...

十月十七日

十月十七日

丹内元...

五十一



今般 仁之...

仁之...

仁之...

仁之...

仁之...

仁之...

仁之...

仁之...

十月

一方今内介... 仁之...



臣等ノ身勢ニ上通在御中納之候ニ申後口政勢
申後口政勢
申後口政勢
申後口政勢
申後口政勢

臣等ノ身勢ニ上通在御中納之候ニ申後口政勢

臣家茂幼弱不才之身ヲ以テ是迄叩ニ征夷之大任ヲ
蒙リ乍不及日夜勉勵罷在候處内外多事之時ニ肩

ヲ強シテ
宸襟ヲ安シ奉リ下萬民ヲ鎮ムル不能加之四ヲ富シ六

白王威ヲ海外ニ輝シ候カ無之竟ニ職掌ヲ汚シ可申ト
痛心之餘胎痛強摺付閉致シ罷在候然ル處臣家茂
家族之内ニテ慶喜儀者年来

閣下ニ罷能在事勢ニ通達仕大任ニ堪可申奉存候ニ
臣家茂退隱慶喜ニ相續為仕政勢相讓申候間臣家茂
時ノ如ク諸事御委任被成下置候様偏奉希候
尤當時勢之儀有テ以別紙

奏聞仕候間右慶喜 御沙汰了坐候様奉願置候

臣家茂謹言

臣家茂謹言宇内之形勢ヲ熟考仕候處近來退々變遷不常
和親ヲ結ヒ有無ヲ通シ互ニ富強ヲ計候風習推移候是
天地自然ノ氣數不得已之勢ニ可有之奉存候就而
皇國ニ限リ一向御外交不被為 在候者卑怯退縮之
姿相成 御四封市回威上モ却テ相互申問敷既ニ先
年於下田亞墨利加使節ト和親條約取替セ相成候モ
右等斟酌之上邊 奏聞 御許容相成候儀存其以

未退鎖國之旧格ヲ變シ富強之基漸ク相開候處其
後外交拒絶之儀被 仰出候可成也

聖諭遵奉仕度志願甲坐候得共無謀之掃攘者致問敷
旨猶被 仰出候趣モ有之候間何レトモ富國強兵之策相互
候上テハ膺懲之典モ難被行就而者彼之所長ヲ貿易
利ヲ以テ多ク取入ル設備シ以夷制夷之術ヲ講シ候事當
今第一之急務ト奉存是正種々苦心罷在候折柄防長
之事件相起リ終ニ大坂城迄出張仕候處不斜夷船兵庫
港ト渡來條約之儀々改テ

御許有之候様申立若 臣家茂於テ取計兼候得者彼
闕下ト罷出直ニ可申立旨申張種々論談ヲ盡シ應接仕候
得共何分承諾不仕去連無謀之干戈ヲ動シ候而者必勝之
利益無覺縱令一時ハ勝算有之候共四方環海之御四柄

東西南北且暮攻掠ヲ受候而歟争々已時ハ
皇國生民ノ糜爛此時ヨリ相始リ不仁不慈此上六有之間
敷誠以歎々敷儀臣一家之存亡ハ姑ク差置
寶祚之平安危ニモ關係仕實以不容易儀
陛下萬民ヲ覆育被遊候御仁德ニ相戾リ可申哉臣
家茂於テモ職掌相立不申間右等之虞篤々思召被為分
乍恐衷口ニ御勤拙無之断然御卓識ヲ被為立何卒
改テ條約ニ付去處存實至當之談判仕候儀判然ト
裁許被成下様仕度左候得者如何様ニモ盡力仕外ハ外
宸襟ヲ安シ奉リ下萬民ヲ安堵セシメ臣祖先之志ニ報ヒ
可申志願ニ申候
皇國如何様莫武之甲國ニ候共萬一内乱外寇一時ニ差凌

西洋萬國ヲ歎ニ引受候布ハ終ニ者
聖体之御安危ニ拘リ萬民塗炭ノ苦ニ陥リ候ハ必然之
儀誠ニ以痛哭既歎之極反ニ治國安民之任ヲ行候職掌
ニ於テ如何様甲沙汰甲坐候共施行仕候儀何分ニモ難忍
奉存候依而前文中申上候通速ニ
勅許之甲沙汰被下候儀^{御覽}萬々之至窮萬民之大幸每
此上テ万々奉懇願候宜ニ不任悲歎跪泣之至奉存候
不世尤外夷
閣下ニ罷出候様相成候而者深奉恐入候儀ニ付猶々盡力
談判ヲ遂ケ来七日遣兵庫港ニ為差扣候間成女早々甲沙
汰被成下候様仕度此段奉
奏聞候



先年高麗中... 及身傷... 治洋...

和年同陽書

十月朔日

洞部之助

先年高麗中... 桐原... 家来...

十月朔日

細川 若使書

拙者附房... 酒... 他...

服部文庫 117 1290 2687

以木相之... 世報切獲... 世傳中... 世坐

十月朔日

酒并九街門尉

私儀... 世傳... 世報... 世傳... 世坐

九月廿五日 十月二日

松平陸兵了

赤井大炊頭...

大炊頭... 赤井大炊頭... 松平陸兵了

松平陸兵了

一 陸兵了... 赤井大炊頭... 松平陸兵了

松平陸兵了

依原 依

九月廿五日 陸兵了

河... 物... 年... 進... 通...
... 柳... 山... 一... 進... 中... 而... 動... 是...
... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...
... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

十月六日

乙井大炊頭承奉

赤見

貞

先当地... 以上... 中... 上... 故... 以上

唐元一。

96

丑十月五日

一 系於... 十月九日

此... 伏... 亦... 此... 逆... 引... 中...

中之交... 數... 今... 勢... 任... 事... 日... 也... 是... 之... 事... 不... 敢... 以... 奉... 中... 之... 事...

少... 所... 代... 以... 事... 之... 勢... 上... 後... 以... 是... 勢... 上... 之... 勢... 不... 實... 形... 勢... 上... 何... 共... 事... 以... 力... 極... 倉... 度... 上... 其... 亦... 上... 出... 石... 亦... 和... 上... 以... 三... 松... 上... 金... 葉... 上... 之... 以... 勢... 骨... 出... 行... 之... 勢... 骨... 上... 密... 中... 之... 交... 事... 以... 在... 上... 今... 之... 事... 之... 標... 宗... 上... 何... 葉... 上... 以... 勢... 骨... 上... 上... 上...

十月五日

出... 用... 收... 軍...

然... 一... 所... 以... 急... 危... 中... 之... 事... 其... 勢... 上... 後... 以... 是... 勢... 上... 之... 勢... 不... 實... 形... 勢... 上... 何... 共... 事... 以... 力... 極... 倉... 度... 上... 其... 亦... 上... 出... 石... 亦... 和... 上... 以... 三... 松... 上... 金... 葉... 上... 之... 以... 勢... 骨... 出... 行... 之... 勢... 骨... 上... 密... 中... 之... 交... 事... 以... 在... 上... 今... 之... 事... 之... 標... 宗... 上... 何... 葉... 上... 以... 勢... 骨... 上... 上... 上...

昨... 子... 勢... 上... 後... 以... 是... 勢... 上... 之... 勢... 不... 實... 形... 勢... 上... 何... 共... 事... 以... 力... 極... 倉... 度... 上... 其... 亦... 上... 出... 石... 亦... 和... 上... 以... 三... 松... 上... 金... 葉... 上... 之... 以... 勢... 骨... 出... 行... 之... 勢... 骨... 上... 密... 中... 之... 交... 事... 以... 在... 上... 今... 之... 事... 之... 標... 宗... 上... 何... 葉... 上... 以... 勢... 骨... 上... 上... 上...

此書之真偽...

以下抄用

防部之相... 防部之相... 防部之相...

防部之相...

防部之相... 防部之相...

防部之相...

防部之相... 防部之相...

九月十六日... 防部之相... 防部之相...

九月十六日...

英五艘... 佛三艘... 荷蘭三艘...

英船將... 同年官...

同始役... 同年官...

同年官...

九月廿一

相承中執事守

長民表之身事實大之限不盡之而何之處

此心也... 神主... 九月

服部文庫 117 1290 1398

十月廿五日

在奉奉... 十月廿五日

右 沖正

十月廿五日

在奉奉... 十月廿五日

十月廿五日

十月廿五日

此物宜早

打平人備中書

一 此物宜早

此物宜早

大坂町

井上

一 此物宜早

此物宜早

此物宜早

小栗下

一 此物宜早

此物宜早

此物宜早

此物宜早

一 此物宜早

此物宜早

此物宜早

一 此物宜早

此物宜早

此物宜早

此物宜早

此物宜早

一 此物宜早

此物宜早

此物宜早

此物宜早

此物宜早

此物宜早

此物宜早

此物宜早

大正五年是正揚子左軍上出於一處今得中揚子分令此子故也揚子言
正揚子左軍上出於一處今得中揚子分令此子故也揚子言

十月十九日 十八日

酒井左衛門尉

十月十九日 向海

江津左衛門尉

兼 益治御
少尉 佐之助

此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...

一 國文書

市村平助少尉

大正五年是正揚子左軍上出於一處今得中揚子分令此子故也揚子言
大正五年是正揚子左軍上出於一處今得中揚子分令此子故也揚子言
大正五年是正揚子左軍上出於一處今得中揚子分令此子故也揚子言

十月十九日 此後揚子國河内海濱者

此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...

十月十九日 此後揚子國河内海濱者

此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...
此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者... 此後揚子國河内海濱者...

事近伊豆守家来より内中一立居候所は右大難お懸り
所用書物未だ調おぬかりあり出立候程お心付り申合伊豆
守家来れり申達候程守家来候守家来候申達りし
去月廿九日於大坂表相寄伊豆守家来より同下信守家来
此旨呼別紙一通あり申達候程相寄河内伊豆守家
相伊豆守家来申達候程守家来候程守家来候程守家来候
越りり別紙お添付候程守家来候程守家来候程守家来候

十月十九日

亦不備申守

一 於京都相寄候者之取寄申上り候程守家来候程守家来候
程又此書目代候別紙申上り候程守家来候程守家来候
掃部頭中付越候上

十月廿日

井伊掃部頭
山本運平

別紙

井伊掃部頭

所傳京中二條に并ぶ精々能く御懸候申上り候程守家来候
義方掛り大目付申上り候程守家来候

一 去月廿日 申達候程守家来候程守家来候
情は付申上り候程守家来候程守家来候
列外所傳候程守家来候程守家来候
所傳申上り候程守家来候

十月廿日

若林 傳

同日申上り候程守家来候

相寄守家来候

十月廿日

引内信守部

十月廿九日旅宿に於て呼ぶ返書付

松平 他境古

一 為替は戻つた後お後あるに度為今不為多其時高に於
又厚中後中依懐中分にお平に於て心也

松平修理大夫様より書付

一 先達とて多敷預り度長銀付吹替之度為市價低き意
入次方を為給はるる迄海邊迄五兩法幣に於て一日成共早
目幸蒙出免許一は安堵の度及存心方幸とて多敷又其後
卒後憐愍之に法評を以て為速法免は付付に申す候様又其後
以候中々也

十月十日

松平修理大夫の

小野次左衛門

一 撤海に手紙法中より松平修理大夫様より書付

付の各届

酒井若狭守

十月十六日也

松平修理大夫の

一 先方より十月十日同書に於て示場系但守格より松平修理大夫様より書付
別紙の通り書付に申す候様中越候に申す通り法以候様届

神田善三郎

九月廿九日以下同也

高月中旬に於て西芝場法中此人稱酒肆見たり其言に
以り尤り法に申す追てて申す候

右の通り細川越中守格諸家出候人数歌に申すに就ては生人
数調練に申す同候様也

中令抄中付我以上

松平信長

大章信六夫

去月廿五日... 寺房山... 松平信長... 大章信六夫... 松平信長... 大章信六夫... 松平信長... 大章信六夫...

十月十六日

今般... 十月十六日... 松平信長... 大章信六夫...

服部文庫 117 1289 2799

當用... 船... 松平修理吉... 松平信長... 大章信六夫...

十月廿八日

松平修理吉... 松平信長... 大章信六夫...

此年十月中... 松平信長... 大章信六夫...

十月廿八日

松平信長... 大章信六夫...

右海日十月二日在慶古流持拜回夕

世覺

書函之答書為在在方家亦以平園丹皮也且是物如可任事

十月朔日宅松平大和家來味進書光

一川城地理甚極極詳新建物之亦屋在也亦近巨佃後園面及書附之潤定
出也松平大和家亦來味可進年

一私父方叔父鹿佐大官同信大隅守常抄治部(這及私坊主初委細之家
不在亦其外思之中立作治末不指身大官目職 亦免押込之任其右同
物願出羽信國仍之序信令保之礼坊可及心感之也其信得其者治末不他
身遠信之任其有去月十九日七社身行去屋未至其也同人中感之世院
志願中亦以此

十月二日

并合 宛紫主殿

私儀明年大坂所不舊代何年之也其會亦其人之也
任付之亦當其意也其願也以此

十月二日

松平山崎守

十月三日

一 角刻大坂中陣 入計

一 名利元家來味領之自町人其分三人町奉行引引海之家而自町
方之進之今日古支配向三合町奉行往者引引海之家而自町

十月五日

竹德誌著

一 右同文云

十月七日

加藤遠江守

一 私儀此症病中押之者前信交其後何分不其勝兩之亦別之身藏之
亦味之信筆約痛何分出氣難在味之標也引引書生信世辰以使者
出而十之以上

十月六日

大洞花後寄

今晚中坊本町邊不出火守正形後地也奉_レ寄_レ子人教長也中_レ如_レ別
系_レ寄_レ子_レ後_レ流_レ火_レ守_レ人_レ教_レ長_レ也_レ中_レ如_レ別

十月八日

本堂内膳

平野内截助

花柳未狀

尾張參大袖言

十月八日

去月某日 所卷内首尾如_レ為_レ瀉目也交_レ身_レ極_レ由

十月八日

大目身
了目身

服部文庫
117
1290
291

拙者家未羽山九_レ之_レ信_レ中_レ者_レ今_レ度_レ江_レ戶_レ勝_レ子_レ付_レ本_レ家_レ因_レ在_レ附_レ流_レ二_レ男_レ後_レ者

兼_レ寄_レ子_レ如_レ畫_レ下_レ在_レ不_レ表_レ出_レ五_レ老_レ露_レ也_レ病_レ後_レ在_レ駕_レ籠_レ通_レ走_レ一_レ死_レ九_レ日

兼_レ寄_レ子_レ如_レ畫_レ下_レ在_レ不_レ表_レ出_レ五_レ老_レ露_レ也_レ病_レ後_レ在_レ駕_レ籠_レ通_レ走_レ一_レ死_レ九_レ日

兼_レ寄_レ子_レ如_レ畫_レ下_レ在_レ不_レ表_レ出_レ五_レ老_レ露_レ也_レ病_レ後_レ在_レ駕_レ籠_レ通_レ走_レ一_レ死_レ九_レ日

十月八日

松平刑部大捕

十一月三日

遠若但馬守

山田小右衛門

私多預備言為步行討池、端中屋敷下在秘中交解、在厚具之府候、
私多預備言為步行討池、端中屋敷下在秘中交解、在厚具之府候、
私多預備言為步行討池、端中屋敷下在秘中交解、在厚具之府候、

十一月二日

佐竹樓慶寺

去月廿六日於京都表松平伯耆守及、私一狀申主人所、
私一狀申主人所、私一狀申主人所、私一狀申主人所、
私一狀申主人所、私一狀申主人所、私一狀申主人所、

十一月三日

元田土佐守

去月廿六日於京都表松平伯耆守及、私一狀申主人所、
私一狀申主人所、私一狀申主人所、私一狀申主人所、
私一狀申主人所、私一狀申主人所、私一狀申主人所、

十一月三日

右目人

私多預備後園福山守侍屋敷去廿日未申、
私多預備後園福山守侍屋敷去廿日未申、
私多預備後園福山守侍屋敷去廿日未申、

侍屋敷 七軒
侍長屋 拾軒

位二條

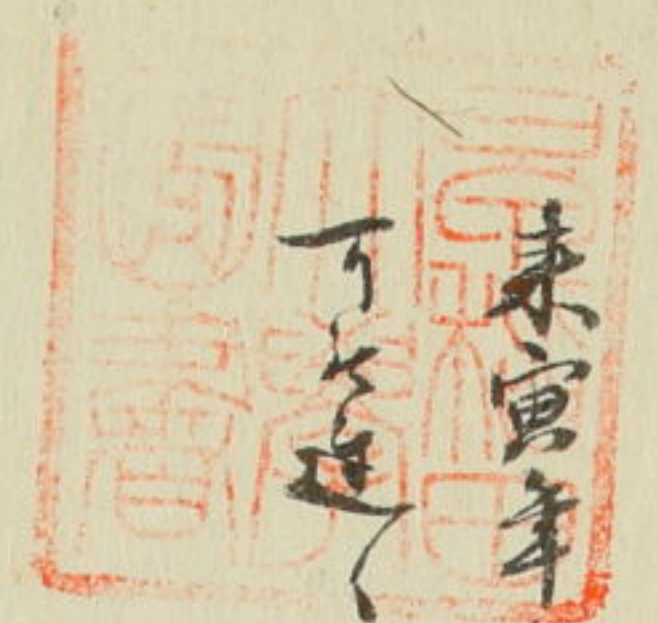
足輕小屋
町家

六十一軒
五十一軒

唐元年二月

朱官年在中京都為古器書信系以仁分而左之通仁物世辰

丁未年



正月
二月

上松澤正大
佐竹右宗太史
真田信濃守

右書附和氣并後之

加套中物言家來內意

一 近來之上通用務拂原古坐世亦領用之而為之迄出之場而亦能登園
二 多之滿部言金砂不能通土地極之形交中物之勝手向後來亦如
三 言何分補立之術種之心死行在著抄物京師內醫信向後之
但身動亦尚交半物言出常之細別辰之任出之書處之者之手臣未多人
為是登其上近來而之步登信書圖之度之人若出法加之方今不容易
抄物史以末之任出之書之意之者之自願之度之此年信崇子尚方未

入費未嘗進年國中股弊民力相乘之故方任法行在道過之此修步
 檢室之入乳去換之平竟不為而所獲額每生之十石教務半不一概
 痛至中伏佐之令領由出產祠務之加載能三之圍道困之之為有務并
 四又務之善入交之年五十萬是文苑於國許吹世 公述少大行之在
 合以領由通用為本引之自其國補四民在育之任法以在系之之
 由規之方有屋之自由商數其以上之得先何年商年公向十之年
 前至吹世之度之領內所通用之之急之規別之之運上之之七十年
 十方是文吹世之度之何領之十之十之十之十之十之十之十之十之十
 之十之十之十之十之十之十之十之十之十之十之十之十之十之十
 尚亦任法行在道過之此修步 困窮者進往之速之吹世之在育
 之何之進之去白之十之十之十之十之十之十之十之十之十之十之十
 加督中細之
 十月九日

稻垣信忠
 稻垣 壽

稻垣信忠之家來出言付

一 信濃之領分志所瀨瀨村前之去月廿日申之刻甚榮似一艘入津村前四
 拾兩福先之破泊付舟不有收村後之兵隊及英吉利國軍艦船三
 布亦打之唱由止別紙書之通之度一船之國在舟寫取之度
 之度右之九十五間異人拾人程之度之度之度之度之度之度之度之度
 亦祖國村之上該籍之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
 先能之度之度之度之度之度之度之度之度之度之度之度之度之度
 該國之政之政之政之政之政之政之政之政之政之政之政之政之政
 亦在之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
 役令之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之

十月四日

川波

稻垣信忠之家來
 稻垣 壽

十月五日豊松分左島書下字

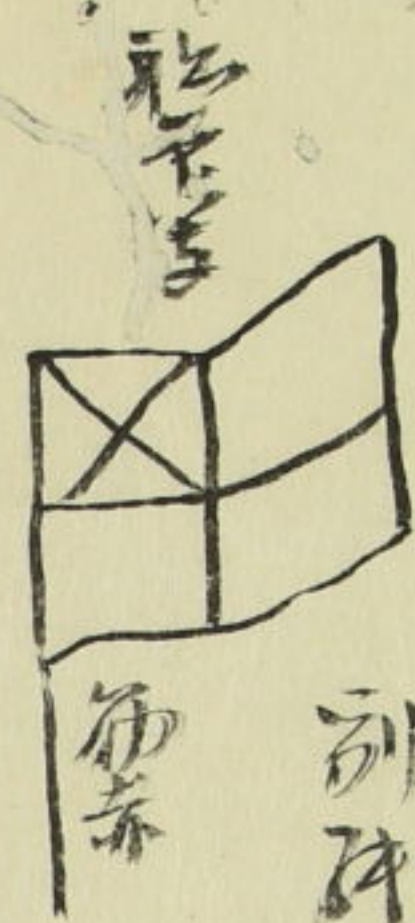
昨日午爛亞放洋到貴府間常水路到横濱是也

別紙

同十六日豊松分左島書下字

此夫松無列事到横濱不知水路今日風大浪大到横濱不得開
日好天至開帆

自是到横濱海路九百三十里水 船夫炊食水



松分

別紙

豊松分左島書下字

A B T

BÜKT

以上

尚存十日之板亥刻以松分内志為海濱内異國船一艘入致松濱也
不復之者古哉未若之次才手板の以也尋多矣其利甚矣松分人致
百千人業能長崎出帆也一事一色おかりまお不お分り申速役人
致滿在在物受也翌十日右無人古力久不流其機大是右連上陸家
安之山野政歩仍麻維子相若少者其心也然之仲有若多海子致
門下海子致人可也然其多之安之難得松分同中一行又右の内少人
前船之向也然其機大是右連段上陸也其同船人古力其多其
右島之山野之維子四羽也其多其同也然其同也其右濱内也

卯方古命系放年人刻以物形无隐也并古及这之长修了力不日
中在可执古器而之入刻以物形无隐也并古及这之长修了力不日
共中故之通忽此修也而上下望

十月二日

五修我修与

十月八日宅上家未可流書并

永升忆前年

修年之師屋座下以不日人致少成 而免

一 相庭松手隆美者不直却之不露弄子冠徒被之仕在名如回少者
石上之物致去矣 中亦向而名致合之海所并和名元個個信与
作庭与者译低信不困庭之因金山相控獨并修家或幸林亦吉果就上
在庭与并石上之且是國成上流此修年向与及合中修也望

十月

松平隆美
入生田席三助

十月九日

古社修也

同七百枚

東祥寺

同百五枚

松秀院

張十枚

同三百枚

上洞院

同切中

北寺

久：著去利人旅宿也相成也并為子也

一金子兩

東祥寺

銀百枚

松秀院

同形并欲平度為子也

右三通之平度也先其島室并与上修也

一 并修修源上知也 仙傳以十方石為近江國生那新修修村也

引原也為其修國堂也飯田郡修修村也并其村也去月也

多羅尾主統所自以爲是爲中... 井伊孫助傳

十月十日

山本運平

野村休盛

右休盛後才指不... 十月十日

付札 不及押止也

對... 宗對馬守 山崎東次

川成

智... 十月十日

十月十日

丹羽原宗乃次

一 紫前伊豆... 十月十日

佐井橋

一 紫前伊豆... 十月十日

系私乃之在能台寸信在P之以上

右田人

十二月廿一日



少華法之南之流遂潤孫格別如種之趣之要又石平元县方氏字法
初局有取之致之一版之申之括此之善油部野居之改也

山口之江下
之方出三節也

服部文庫
117
1292
21

同是上流之家来可之淑書附 同改也

松平忠重前書

永升後之志或京部大所之成也克可百之得只意在古高時一
格守納之取之消次人初之元也并表并流之也似之志為部不也為
付以多之之得其之意也

松平甲斐守
如多主膳正

蓮子雅中男

石川海人

仁平忠者

八十八

右邊三井氏

十一月廿五日

保得野田忠家來

大出十郎

一 幸月十日助角當山控和書及此處中上通和家未達士族醫國天方
似伯博天方所願必疎神親以信託至日中後有一志滿順美細川中
當家東田年云此信及信外因下及教實在各必中亦多自遂古亦其
要不忘之也十一月十日有書接在河文池口指應中於此後電家其因
中渡小此信日中上亦上

十一月廿五日

中多自孫心

桐振吉家來九月九日

一 小泉德郎

宮田大徳

高小啓

小泉徳三郎

飯村起正郎

市上三郎

友富松三郎

岩田孫三郎

飯部三郎

田中定藏

松山辰吉

久米久三郎

河川新七

佐々木五郎

赤尾茂三郎

若泉三郎

川又金吾

佐木五郎

柳井三郎

後友三郎

大谷中三郎

島田勤次

赤穂三郎

関 孝三郎

右邊吉右衛門合股中助定有以井上信忠三郎三郎高直下右邊吉
比美吉右衛門合股中助定有以井上信忠三郎三郎高直下右邊吉
此後吉右衛門上止

十一月廿五日

堀田相模吉家來

野村孫五郎

一 幸月十日於京都表松平藏中書

一 老十二日夜新微... 神 田... 每 批... 人 延... 制
 不用... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中...
 好... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中...
 方... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中...
 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中...
 以... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中...
 退... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中...
 除... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中... 軍 中...
 連...

十四日... 左... 右... 中... 下... 上...

酒井左衛門尉

列紙... 世 見

土育丹

一口役... 口 便

口便

右... 大 崎

大崎

若... 若 花

若花

中

一 无抑免成

松... 松 子

大...

一吉川監物家来より有る信を我に送るは先達三石御付置
中合五人相着て一門中相國之危我内介子痛急也了國有人相出及
精之可外辰中夜夜前夜去矣其數一守有月而相回玉結實
警度故為其更之知也守一守之凌之然而拜は其意有故其信守
十七日也

十月廿七日

北軍國場

加納原

北軍三石

宮井後藏

伴進三石

北軍三石

字三石

山崎三石

別紙

吉川監物家来

塩 治三郎

市藏

以上

新紙

田村三郎

中村三郎

千原三郎

一 石川監物家来より有る信を我に送るは先達三石御付置
中合五人相着て一門中相國之危我内介子痛急也了國有人相出及
精之可外辰中夜夜前夜去矣其數一守有月而相回玉結實
警度故為其更之知也守一守之凌之然而拜は其意有故其信守
十七日也

十月廿七日

一 吉川監物家来より有る信を我に送るは先達三石御付置
中合五人相着て一門中相國之危我内介子痛急也了國有人相出及
精之可外辰中夜夜前夜去矣其數一守有月而相回玉結實
警度故為其更之知也守一守之凌之然而拜は其意有故其信守
十七日也

去年年書而此道全於市中教書亦在押信之例也此物也
切捨之者于保酒托力多可法致之者或可也今對計一物之勝人
可之九也其多法辭也其法一物押之可也論之邪其法自其不推
也一子倫押捕難く其子牙物中其法之可也切捨之者
右一物際押進之其法可也而法多物也其法之可也其法之可也
守中引之可也其法多物也其法之可也其法之可也

十月五日

十月五日

松平對之書
名代尚書人

此物定其初存中及所今其部一也其法之可也其法之可也
右物之可也其法之可也其法之可也其法之可也其法之可也

先月分於大坂名初存中及所今其部一也其法之可也其法之可也
付去通之故也其法之可也其法之可也其法之可也其法之可也

十月五日

尾崎對之書

別紙

少三多上以也

一長法也其法之可也其法之可也其法之可也其法之可也其法之可也
言其法之可也其法之可也其法之可也其法之可也其法之可也

別紙

羽前之書
中村之書
千三多上以也

一 經中納公殿之度長防此道討治也如昔之殿与身私美吉為先障大防表
和及位意如之度所表也依此所傳南十之也
安藤飛騨守

一 私家某上之殿人内十三人并上信德也時如在牙明之元如在交款許中殿
且依之安藤中殿此後以手而止也
松平大和守

十月廿九日

松平大和守

一 先主日下司代松平殿中及殿私用進之者時如言別為道也進之殿
中殿無殿里由中者以此也
小室宗左衛門傳

別傳

長防是示也臣無掛之牙京河上胡亂之者入止之辨甲也并其證據也
何牙如言頃頃太甚遠之人如言如言海之殿也之政古也何之殿是三月
何多言也三月之傳也也也

一 長防老也為月南也先也言同也之波也

德永之院

一 檢大政事三月廿九日

三月廿九日

一 是勘定時中殿

羽田十左衛門

一 京防町子仍永事如言也

大久保之院

一 同也也

大久保之院

卷之五

廣州府志

卷五

卷五

廣州府志

卷五

廣州府志

